

## HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム 科目概要

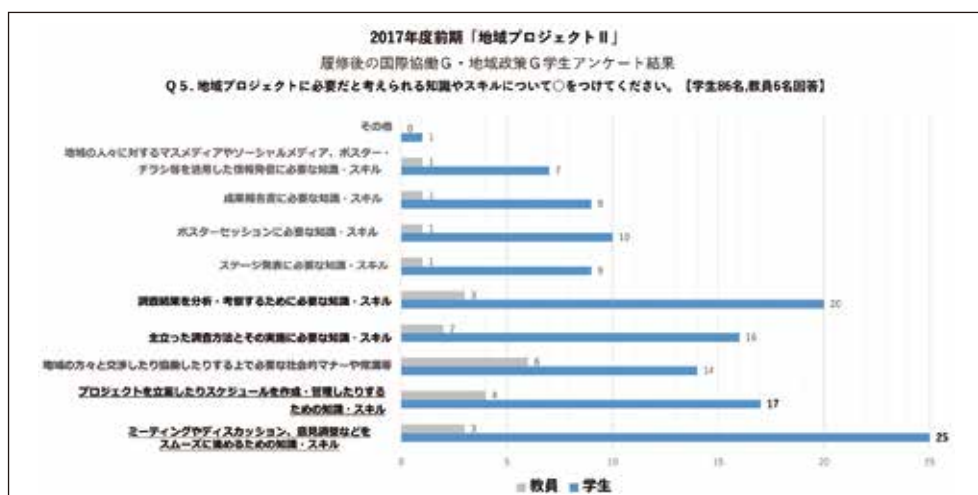
### ② プロジェクトマネジメント演習

北海道教育大学函館校  
教授 小林 真二

#### ◆科目新設の経緯

「プロジェクトマネジメント演習」は、HAKODATEコンシェルジュ養成プログラムおよび後継の国際地域イノベーター人材養成プログラム用に新設した科目の一つである。本校の基幹必修科目である地域課題解決型PBL「地域プロジェクト」(以下「地プロ」)では、開設当初より当該科目を進める際に必要な諸知識・スキルに関する指導が不十分である点が問題となっていた。そこで2017年度前期の履修後学生アンケートであらためて「地プロに必要と考えられる知識やスキル」を問うてみると、上位を占めたのはA)ファシリテーションスキル(1位)、B)社会調査に関する知識・スキル(2位・4位)、C)「プロジェクトを立案したりスケジュールを作成・管理したりするための知識・スキル」(3位)であった。このうちB)に関しては「社会調査の基礎」「社会調査実習」などが既に存在したため、担当者に依頼してプログラムに提供して頂くこととした。一方、A)C)に

関しては該当科目が存在しなかった。地プロのような地域課題解決型PBLを本格導入した他大学の状況を調査してみると、実施前に基礎的な知識やスキルを身に付ける科目を配置するのが一般的であることがわかった。例えば、同旨のPBLに4年間取り組むことで知られる高知大学地域協働学部では、「プロジェクトマネジメント演習」を2年次に配置し、これを専門とする専任教員を充てるほどに力を入れている。本校でも最低限は整備する必要があると考え、プログラムWGで協議し新設するに至った。なお、本学の教員養成キャンパスでは、未来の学び協創研究センターにより初年次教育に「ファシリテーション論」の新設を検討中との由である。「主体的・対話的で深い学び」の実現や協働的な「探究」等の推進に際し、教員が優れたファシリテーターとなる必要性があらためて意識されるようになった証左だろうと考えられる。



2017年度前期「地プロ」履修後の国際協働G・地域政策Gアンケート結果

#### ◆授業の概要

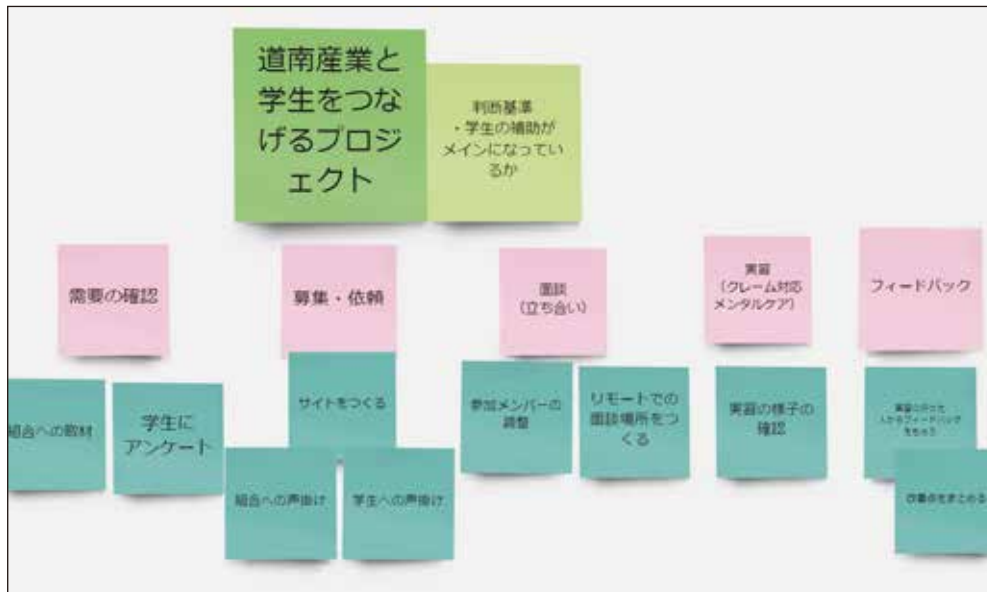
「ファシリテーション」と「プロジェクト立案・スケジューリング」の実践的指導の題材として、説明

時には身近な「カレーの作り方」を、演習時には学生自身が発案した様々なテーマ(「コロナ禍授

業の問題点改善」「学食への提案」等々)を採用し、具体性と主体性の確保に努めた。また、役割(ファシリテーター・グラフィッカー・タイムキーパー・チェッカー等)を交代しながら実践することで、各自がいずれのスキルも公平に試行できるように配慮した。

2021年度前期には夏期休暇期間中の集中講

義として開講し、19名が受講した。コロナ禍への対応に伴い遠隔授業形式で行う仕儀となったが、Zoomのブレイクアウトルームやmiroのホワイトボード機能などを活用して対応を図った。幸い、学生達も担当教員も遠隔授業形式に慣れてきていたため、アイスブレイクに一定程度配慮するだけでスムーズに進行することができた。



Zoomのブレイクアウトルームとmiroを活用したチームミーティングの記録

### ◆学生の反応と今後の展望(2021年度前期)

受講学生に無記名式アンケートで「この授業の後輩へのオススメ度」を5段階で尋ねたところ、平均4.9という評価を得ることができた。自由記述では「今後のミーティングには自信を持って参加できるのではないかと感じています」「プロジェクトを進める上で大事なことを知ることができて良かった」、「学生生活だけでなく、就職してからも役立つスキルを身に着けることのできる授業であった」などの心強いコメントが寄せられた。一方で、①「ぜひ教養科目などの区分で他の学生さんにも受講していただきたい」、②「対面が良い」といった意見があったことにも留意したい。①のような意見を俟つまでもなく、本科目がそもそも地プロの円滑な推進の必要性から創設されたという経緯を踏まえれば、今後は必修科目である「アカデミックスキル」への組み込みなどを検討すべきだろう。また、②に関しては状況が許せばもち

ろんそうしたい。国際地域イノベーター人材養成プログラムの大人気を踏まえ、急きょ2021年度後期にも集中講義を増設することにしたが、小文執筆中の12月末時点では対面で実施の予定である。

毎度、最後の課題は「新たに立ち上げてみたい地域プロジェクトの構想」に設定している。今夏は「外国人労働者と地域の団結プロジェクト」「新たな函館観光提案プロジェクト-オンラインシステムを利用した映像作品作成の広報活動-」「函館工芸品継承プロジェクト」「道南産業と学生をつなげるプロジェクト」「道南クッキングプロジェクトin商店街」の5件が構想された。他大学では地域課題解決型PBLのテーマのうち幾分かを学生提案に委ねるケースも見られる。本校でもそろそろ学生の提案を受け止める仕組みを作ってみてはいかがだろうか？